

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.89

2013.3.6

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

被災地・釜石で

釜石地域平和大会開催！平和を願う多くの市民が参加！



第9回釜石地域平和大会は2月16日、80名を超す参加者で、母親大会釜石地区代表熊谷さんの開会挨拶、広島・長崎・釜石艦砲犠牲者・全戦争犠牲者・大震災犠牲者への黙祷で始まりました。会場の壁面には「原爆と人間」のパネルが展示してありました。

2009年には釜石市平和委員会を中心に7,000人以上の9条を守る署名を集め、翌年には震災資料館建設に多大な貢献をした輝かしい実績があります。野田釜石市長、碓川大槌町長のメッセージが寄せられるほどの広がり、平和を希求する熱意に満ちた大会となりました。

原水爆禁止世界大会報告者の関谷さんは、参加して平和に対する自分の考え方が大きく変化したこと、岩国米軍基地見学の様子を報告、「私の8月15日」の戦争体験談（代読）の後、日本平和委員会の佐藤光雄さんが講演を行ないました。

「知らせないマスメディア」に陥っている原因は、有事法制の改定の動き、秘密保全法の制定策動と関係あるとの話が特に印象的に残りました。

釜石市平和委員会岩鼻副会長から「申し合わせ」が読み上げられ、スローガン唱和、「原爆許すまじ」を歌い、千田ハルさんの挨拶で閉会しました。

釜石・大槌九条の会も実行団体として取り組みました。会の事務局・金崎安子さんは、「この被災地の中でも、平和をめぐる危機的な情勢から、どうかしなきゃと思う人が多いとわかりました。いろいろあっても、

休まずに、継続してきたことが実を結んでいると思っています。大変な中ですが、これから、9条署名も再開しなければと思っています。」と強い思いを語っています。

第9回釜石地域平和大会



コラム 自民党の「日本国憲法改正草案」は、どんな「国」にしようとしているか？（その1）

1月の安倍首相の所信表明演説は、予想通り7月の参議院選挙を前に「憲法改正の意向」の表明には触れない「安全運転」そのものでした。しかし、求められる形とはいえ首相は国会での答弁を含め「まずは96条から改正する」と「改憲意向」明言の繰り返しです。

96条改正の狙いは「九条の改正」。しかし、首相始め改憲派の議論はその「狙い」を隠し、「3分の2以上の賛成を要する改憲発議要件は厳しすぎる」から「過半数の賛成で発議可能とする」と言うように国民受けを狙ったものとなっています。

9条の会は改憲派の狙いを国民の前に明らかにし、宣伝し、九条を守る活動を継続、強化させるとともに、併せて「96条改正反対」も掲げることが求められるでしょう。そして、同「改正草案」で例えば「国防軍の保持」などとするのは日本国憲法の改悪であり、この厳格な規定は日本国憲法を改悪させないためのものでもあったことを想起する必要があります。

(T)

9日宣伝・署名行動を再開しました！

矢巾九条の会

2月9日（土）11時から12時までの約1時間、矢巾九条の会は「9日宣伝・署名行動」を矢幅駅東口で行いました。

世話人6人と会員1人の7人が小雪舞う駅入り口で、電車の乗降客や通行人に憲法9条を守る署名を呼びかけました。

子ども連れの母親、三連休で帰省した娘さん、高校生、タクシーの運転手などが足を止め、署名に応じ、28筆の署名が寄せられました。

「戦争をやりたい人がいる。いやですね」と力を込めて署名する高校生、「頑張ってください」と大声で激励する青年など、大きな反応がありました。また、「日本は防衛にもっと力を入れるべき。むしろ憲法9条は変えた方がいい」と、現在の情勢や安倍政権の改憲志向に賛同し署名を断る50代男性など、もっと宣伝・運動の量を多くしていかなければならないことを実感した行動でした。

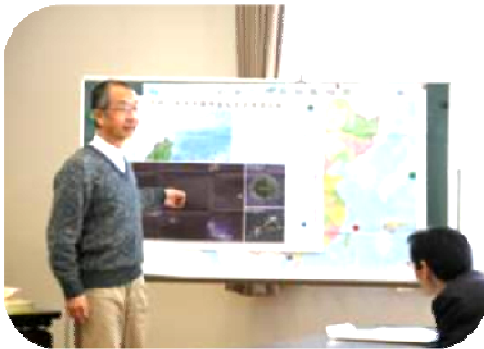
3月も9の日、土曜日同じ時間で行動します。一人でも多くの参加を呼びかけて、宣伝・署名行動をしたいと思います。



北上「九条の会」結成8周年記念・憲法学習講演会を開催



北上「九条の会」結成8周年記念・憲法学習講演会が2013年2月17日に黒沢尻西地区交流センターで開催され、39人が参加しました。



講師は「北上九条の会」世話人代表の川島茂裕氏(中国河南省三門峡職業技術学院専任講師)で、演題は「領土問題と憲法九条」。

尖閣諸島の問題を通じて、「領土問題ナショナリズムと憲法九条」をどうとらえるかという大変高度で時宜を得たテーマをまともに正面から取り上げ、歴史的な資料を呈示しながら、中国と日本の主張の違いを整理して論点を指摘し、当たらずと遠からずの我々の認識に鋭く迫る、息を飲むような講演でした。

中国の尖閣問題のデモの本当の様子、中国を取り巻く国際関係、日中の主張の決定的なターニングポイント、各政党の主張の特徴など、詳しく分析して、日本の主張と中国の主張の本質的な違いを浮き彫りにし、解決の道を探る糸口は何であるかを考えさせてくれました。

日中、日米、日韓、日露、個別に外交があるだけではなく、グローバル化の全方位外交が主流になっているという指摘には納得しました。そういう視点で見れば、冷戦時代の固定観念で見えてしまう現在の我々は物の見方を変えなければならないだろうなあと感じさせられました。新聞の読み方、ニュースの聞き方ばかりでなく、そのあとの紛争の想定とその結末までシミュレーションして見るという視点も大変新鮮に受け取りました。

今国会で、改憲勢力が多数になったように思われるが、国民の多数が「憲法九条を変えない方がよい」と考えており、改憲勢力と対峙する国民運動を続けていくしかないということを確認しました。

(写真・文責 高橋 洋明)



今月の署名行動

だんだん暖かくなってきましたが、今月まで岩手の会の街頭署名行動はお休みいたします。4月からは、再開いたしますので宜しくお願いいたします。